

戦国時代の山城・小里城跡

岐阜県瑞浪市の南部に位置する稲津町内には中世からの近世初頭にかけて当地を治めた領主「小里氏」の居城とされる城跡が三ヶ所あり、小里古城跡、小里新城跡、小里城山城跡と呼ばれています。



小里城山城登り口

その中でも最も規模が大きく、また平坦面（曲輪）なども良好な状態で残っている小里城山城の本丸跡（岐阜県指定史跡）は小里国有林（二三一鈐）内にあり、この場所はレクリエーションの森（小里市民公園ほか〇・四一鈐）に指定されています。



登山道（V字に切れ込んでいる）

この山城の築城時期については明らかでないようですが、小里光忠が当地を所領した天文元年（一五三三年）頃、あるいは織田信長と武田氏との攻防の最中であつた天正二年（一五七四年）と考えられ、元和九年（一六三三年）に幕府からの命により小里氏が断家となつたことより廃城となつたとのこととす。

曲輪は、城山の北側山麓（御殿場跡）

と山頂（本丸跡）に確認されており、「御殿場跡」は大手門と呼ばれる門跡（石垣）が残っています。また「本丸跡」は、石垣のほか天守台あるいは升形と呼ばれる不等辺六角形を呈する石積みがあります。

辺りには築城用の石切跡のついた石や割石も散在しています。

また、この天守台は、織田信長が安土城天守築城前に自ら指示して築かせたという説もあり、六角形の石垣から想像して、もし完成していれば安土城のような風変わりな天守ができていたかもしれません。

最近の歴史ブームにより、小里城跡にも多くの観光客が訪れています。

なお、山城から谷を挟んだ西側には、コウヤマキの分布下限近くに位置する林分約一九鈐が小里コウヤマキ植物群落保護林として指定されている場所もあります。

◆アクセス

（所在地）岐阜県瑞浪市稲津町小里

○車をご利用の場合

中央自動車道瑞浪IC下車県道二〇号線を南へ約三〇分。

○公共交通機関をご利用の場合

JR中央本線瑞浪駅から東鉄バス明智線「明智駅」行きで「山の田」バス停で下車。小里城址のある山の麓までは約二キロメートル。



天守台から町並みの一望



小里城山天守台の石垣（不等辺六角形を呈している）